



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

ROTARY 2000:
ACT WITH
CONSISTENCY
CREDIBILITY
CONTINUITY



ロータリー2000:

活動は-堅実、
信望、持続

1999~2000年度 国際ロータリーのテーマ

世界理解月間

第627回 平成12年 2月 2日(水)

〔本日のプログラム〕

- | | |
|-------------|---------|
| 1. 点 | 鐘 |
| 2. 国 | 歌 |
| 3. ロータリーソング | |
| | 「奉仕の理想」 |
| 4. 「四つのテスト」 | 唱和 |
| 5. 食 | 事 |
| 6. 会長の時間 | |
| 7. 幹事報告 | |
| 8. 委員会報告 | |
| 9. 2月セレモニー | |
| 10. 点 | 鐘 |

次回予告

★ 2月9日(水)

夜間例会

新会員卓話

江崎 富治君

★ 2月16日(水)

会員卓話

伊東 忠寛君

佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日(12:30~13:30)	会長	福井 輝文
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	梶田與之助
事務局	宮崎部佐土原町大字下新河3887-17	幹事	恒吉 正志
	☎880-0212	会計	林 厚雄
	TEL及びFAX 0985-73-7170	総委員長	池田 仁志

第626回例会記録 (2000. 1. 26)

☆会長の時間

会長 福井 輝文 君

皆様 今日は
第626回の例会です。

先ず、始めにビジターの紹介をします。
西都ロータリークラブの十川 英利君で
す。よくお出で下さいました。

去る1月21日(金)IMに向けての
各クラブ会長の打合せ会が開催され、築
瀬中部分区代理やホストクラブの日南ロ
ータリークラブから、要望がありました。

料理等、色々趣向を凝らした郷土料理
でおもてなし致したいので、全員登録を
極力お願いします。

特に、入会5年未満の会員は是非共、
出席をして下さい…とのこと。

登録料¥3,000ですので、会計と
も相談して、全員登録を進めたいと思
います。

日帰りの行程ですが、又それが親睦を
深める機会になるのではないかと、期待
しております。

後で、社会奉仕委員長より、お話があ
ると思いますが、今年度の社会奉仕賞に
ついてお願いをします。

この賞の趣旨に値する方がありました
ら、推薦して下さい。できましたら、我
々会員の中からの推薦が最もベストで
すので、よろしく申し上げます。

どうしてもないということだと、役場
等、行政機関の情報でも伺うことにな
ります。

それから会員増強についてお願いしま
す。私の会長年度に3名の純増を考
えていました。

皆さんから、2、3の情報があります
ので、それぞれの方から、アポをと
って頂き、何とか良い方にもって行
きたいと思っております。

今日も、容器包装リサイクル **最新
号への産廃**のコピーをお配りしま
したが、どの自治体でも苦悩してい
る様です。

PETボトル等の回収が進み、回収、
リサイクル業者が、再商品化能力が
確保できない見通しで、引き取りを
少し減量するよう要望していること
のこと。

立川市の例が掲載されていますが、
他の自治体でも色々の動きが出始
めているようです。

時間がありましたら、読んで頂くよう
お願い致します。

☆幹事報告

幹事 吉田 康一郎 君

西都、高鍋両RCより、2月の例会案
内がきております。

事務所におきますので、何かあり
ましたら、事務所にお聞き下さい。

1月24日(月)に市郡7クラブの幹
事会があり、私が幹事代行で出席
しました。

ロータリーの森、または記念に残
る植樹を!との話題が出ましたが、
これは次年度へと計画の持ち越し
をするとの事でした。

我々佐土原ロータリークラブでも例会場の玄関に「ロータリーの花壇」を作る予定があり、着々とその準備をしているとの話をしておきました。

参加クラブは、5クラブでした。又、宮崎西RCの40周年記念式典が、4月7日(金)に予定されているとの事、こちらの方は、後ほど、案内状が来ると思います。

☆出席報告

委員長 柳田光寛君

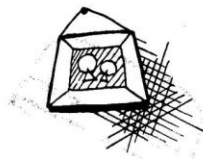
会 員 数	26名
例 会 出 席 者	20名
出 席 率	77%
メークアップ者数	3名
修正出席率	88%
欠 席 者 名	鮎. 穂. 詩. 井. 博

本日、半年間無欠席者の7名に記念品を授与して表彰を致します。

又、次の6ヵ月間も頑張り更に沢山の表彰者が出ることを期待したいと思います。

福井君. 吉田君. 山脇君. 田村君
浜田君. 正岡君. 林君

以上の皆様、よく努力され、精進されました。おめでとうございます。



☆社会奉仕委員会

委員長 徳丸彰一君

プログラムでは、11月の予定でした本年度の社会奉仕賞贈呈の行事が延び延びになっておりましたが、対象者の推薦を皆様をお願いします。

先ほど会長からもありましたように、できましたら、会員からの推薦の方がよいと思います。

地域住民のために、または地域の子供達の為に、地道に活動していただける方がおられましたら、是非情報をお寄せ下さい。



Happy Voice

私達二人の誕生祝いをいただき、誠にありがとうございました。

まだまだ60代です。これからですので... よろしくご指導下さい。

H12. 1. 吉日

徳丸 彰一
カズ子



無欠席の表彰を頂き、有り難うございます。今後共、体に気をつけ、頑張りたいと思います。

☺ 浜田 松太郎
☺ 福井 輝文
☺ 吉田 康一郎



☆国際親善奨学生

吉野真由美さんより

佐土原ロータリークラブ 御中

皆様 いかがおすごでしょうか？
この夏は壮行会など催して頂き、本当に
有り難うございました。

さて、私の方は、大学の登録も無事す
ませ、家の方も少しずつ落ち着きつつあ
ります。

先日、ロータリークラブの集まりに参
加してきましたが、皆さん、とても親切
にしてくれます。

日本の大学ではフランス語を学んでい
る人間は多いのか等、質問もいろいろと
されました。

ホスト・カウンセラーのHerve Charam
elさんには、家探しや銀行口座などの件
で本当に親切にお世話していただいて、
異国の地で人の暖かさの有り難みを感じ
ました。

では、皆様も身体に気をつけて。

第1回報告書

【ロータリー関係の活動】

フランスに到着以来、ロータリー奨学
生である、ということが人間関係を作っ
ていく上で非常に大きな礎となった。

ナントで家を探す際には、ホスト・カ
ウンセラーのシャラメル氏に付き添って
もらい、無事見つけることが出来た。

シャラメル家に昼食を招待され、フラ
ンスの家庭料理を味わい、またフランス
人の生活を垣間見ることができて、私に

とっては大変貴重な体験となった。

また、10数年前、ロータリー奨学生
としてナントに滞在していた大学の教授
に、こちらのロータリアンの方を紹介し
ていただいた。ナント到着時、このロー
タリアンの夫妻は本当に暖かく迎えてく
れた。

また、ロータリーの会合に出席した折
には、交換留学生としてフランスにきて
いる高校生カーラと知り合いになった。

彼女はカナダからの留学生で、やはり
同じように交換留学生としてきている日
本人の堀越舞子さんとも知り合いであ
った。

ロータリーの会合では、日本における
フランス語、フランス文化の位置が話題
となった。私自身としては、フラン
ス文化を吸収するばかりでなく、短い時
間でも日本文化にも興味をもってもらい
たいと思い、小さな日本の小皿をクラブ
にプレゼントした。色とりどりの小さな
小皿をクラブに飾ってもらい、日本文化
に少しでも興味を抱いて、国際交流の助
けになれば良いと願っている。

これからも、ロータリー奨学生である
ことを通じて、様々な行事に参加して、
フランスの文化に触れていきたい、と思
うと同時に、フランスにロータリー奨学
生として来ている他国の奨学生の方とも
交流を深めたいと望んでいる。

【研究プログラムに関する情報】

現在、ナント大学第三過程のD. E. A. コ
ースに登録し、授業に出席している。

このクラスにはすでに三人の日本人が
登録しており、最初はフランス語を話す
機会を逸してしまうのではないかと危

惧したが、心配するには及ばなかった。
授業では、日本で学んだことと多少重複することはあるものの、これほどフランス語の授業を聞く機会も日本では殆どないため、毎日がフランス語を学ぶ良い訓練となっている。

私はD. E. A. の学生だが、外国人であるため、話し言葉のフランス語にまだ十分慣れておらず、フランス語の補習授業に出席することにした。また、指導教授に薦められて、彼の学部一、二年生向けの授業にも週二日出席している。

D. E. A. 論文については、指導教授と連絡を取り合い、題目を決め、これから自分の研究の方も進めていくつもりである。

授業で聞き取れなかったり、解らないことがあった場合は、フランス人の学生に尋ねることにして、ノートを貸してもらったりして補っている。これは単に授業についての理解を深めるだけでなく、フランス人とも友人になる良い機会なので積極的に質問し、国際交流の良い場になれば、と考えている。

【ホスト国、家庭訪問、各種施設、
史跡など。】

フランスは豊かな国である、というのがなんといっても第一印象であった。いろんな意味で「豊かな国」だと実感した。例えば、食べ物と文化などを例に取り上げてみたい。フランス料理は日本でも知られているが、日本のフランス料理とフランスで食べるフランス料理というのは全く異なるものである。まず、なんといっても量が違う。日本の上品なフランス料理はこちらでは存在しない。ボリュームのある、素材を活かした料理である。

フランスは古くから農業国としてヨーロッパでもその地位を築いていることも

あり、市場やスーパーマーケットに行く
と、驚くほど豊富な食材が簡単に手に入る。果物やワインなど、安価で入手可能である。 ナントの街は、フランスワイン・ミュスカデで名を知られ、またブルターニュ地方に属していることもあって、シードル（りんごのお酒）の消費量もかなりのものである。

シャラメル家では、アントレに始まりデザート、コーヒーに終わる典型的なフランス料理のコースを堪能した。またフランス人がいかに家族を大切にしているか、というのも同時に実感した。昼食であろうと、職場や学校からいったん帰ってきて家族全員でテーブルを囲む、これは現在の日本ではなかなかお目にかかれない状況ではないだろうか。

現在暮らしているレジデンスでも、何人かの外国人を除いて、フランス人学生の殆どが週末になると両親の家に帰省するのが普通のようなのである。食事に話を戻すと普段はサンドイッチを道端で頬張って、簡単に済ますこともあるようだが、家族や親しい友人達との食事は長い時間をかけて、食事だけではなく、会話も堪能しながら豊かな時間を過ごすのである。

また先述の、日本の教授に紹介されたロビウ夫妻の家でも、昼食会に呼ばれブルターニュ名物の牡蠣や、リンゴのタルトをご馳走になった。昼食会は、昼の一時から夕方五時まで続いた。食事に欠かせないエッセンスはなんといっても会話なのであった。

フランス語で、「文化」はCultureと書くが、この語は同時に「農業」Agricultureから派生しており、この食べ物と文化のつながりもきつても切り離せないほど密接に結びついているのをこの滞在で実感することが出来た。

(他に経費明細書があります)